

食料・農業・農村政策審議会企画部会 議事概要

【日時】 令和4年3月15日（火）13:00～15:00

【場所】 農林水産省第2特別会議室

【出席委員】 大橋部会長、浅井委員、井上委員、大津委員、川上委員、佐藤委員、高槻委員、林委員、中家委員、二村委員、堀切委員、宮島委員、三輪委員、山波委員、柚木委員（欠席：磯崎委員）

【概要】

- ・ 食料・農業・農村白書骨子案（案）を議題に開催。主な発言は以下のとおり。

(1) 食料・農業・農村白書骨子（案）について

(中家委員)

- ・ 国民運動は非常に重要であり、トピックス4のニッポンフードシフトについて、官民協働で行っている推進パートナーの様々な取組を記載して、国民運動の機運を盛り上げてもらいたい。
- ・ トピックス7の新型コロナウイルス感染症による影響について、生乳の現状を取り上げていただいて感謝。年末にかけて大変厳しい状況であったが、春休みはそれ以上に厳しくなる。花きや生乳のほか、米、砂糖も影響を受けているため、本文で記述していただきたい。
- ・ 特集は農林業センサスを踏まえて淡々と記載しているが、基本計画に照らして、それぞれの数字が良いのか、悪いのかを含め、評価を入れた方が分かりやすいのではないか。
- ・ 農業構造では農地が非常に重要な要素だが、触れられていないため、記載する必要がある。また、大規模化、法人化の記載が多いが、中小や家族経営の詳細な分析も必要と考える。
- ・ 食料の安定供給の部分で、輸入のことについて触れられていない。ウクライナ情勢も踏まえ、輸入がどうなっているのかを記述する必要がある。今までの経過なども含めて記載してもらいたい。
- ・ 26ページの農業生産資材について、「良質かつ低廉な農業資材の供給や農産物の生産・流通・加工の合理化」の部分の記述が骨子にはない。本文の中では記載されると思うが、資材の供給リスクが高くなっており、資材価格の動向・課題や資材の高騰対策、安定確保対策を含めて幅広く取り上げていただきたい。

(堀切委員)

- ・白書の全体を通して、非常に分かりやすくなった。色使い、字の大きさも含めて、誰が見ても見やすく近しいものになったと感じる。
- ・昨年来、穀物価格の相場が高騰し、足下のウクライナ危機でますます穀物の需給に国民の関心が集まっている。輸入と消費の実態を国民に知ってもらう良い機会であり、しっかり記載してもらいたい。
- ・13 ページの食品産業の部分について、穀物相場の高騰によりコストプッシュ型のインフレとなり、年明けから様々な食品の値上げが行われている。これまでは商品価格に転嫁できず生産者や流通業者がコスト増を負担することが往々にあったが、2021 年 12 月にガイドラインが策定された。これは今までになかったことであり、一つ一つの食品がどのような形で、どのようなコストで生産されているか消費者に知ってもらい、負担してもらわないと、日本は海外からの輸入原料について他国に買い負けしてしまう。製造業者と小売業者、そして消費者の理解を得られるような働き掛けをしてもらいたい。

(柚木委員)

- ・白書については、網羅的で分かりやすく整理されている。
- ・特集の農業所得の部分で、経営収支の分析の構造がどうなっているか、本文で掘り下げて記載していただきたい。
- ・農業経営費についても、どのような費用が中心になっているかという点も含めて、本文で掘り下げていただきたい。
- ・白書全体を通じて、基本計画の農業経営モデルの関係で比較対照できるような部分があればありがたい。
- ・32 ページの再生可能エネルギーについて、前年度白書では営農型太陽光発電の導入が全国的に拡大しているという記載があったが、地域の農地利用に関する様々な課題が出てきている。現状と課題について言及する必要があると考える。
- ・37 ページの防災・減災、国土強靱化と大規模自然災害への備えについて、昨年 7 月に起きた熱海の盛土崩壊があり、今国会に提出されている盛土規制法案や昨年 11 月に流域治水関連法案が施行された。農業農村や農地にも関係してくる部分なので、その点も白書で触れる必要があると考える。

(高槻委員)

- ・14 ページのグローバルマーケットの戦略的な開拓について、一次産品の話が多いが、グローバルマーケットを開拓するためには加工分野等でのテクノロジーの観点が非常

に重要。

- ・一般的なフードテックでイメージされる場所とは違うかもしれないが、たとえば、九州の鰻屋の新しい取組として、鰻をさばく技術や串打ちの技術といった、職人が必要だった技術をテクノロジーで代替する取組がある。こうしたテクノロジーにも目を配っていただくとよいと思う。
- ・前回指摘した日本の輸出状況の位置付けについて、「ポテンシャルがある」と現段階ではこの表現となっているが、数字を挙げるのが難しいためと理解している。
- ・20 ページの「女性が能力を発揮できる環境整備」というタイトルについて、若干上から目線のように感じる。代替案として、「女性も活躍できる環境整備」に変更してはどうか。

(二村委員)

- ・20 ページの女性が能力を発揮できる環境整備について、内容としてどのようなことを目指していくのか、農業で女性が活躍することにどのような意味があるのか深掘りをしていただきたい。
- ・地域を牽引する女性リーダーとは具体的にどのように指標化されるのか。会社の場合、役員層における女性の割合等が言えると思うが、現場で働いて活躍している女性の意見を聞いて考えても良いのではないか。
- ・特集の 10 ページについて、米と野菜の価格を記載している。安ければ良いと言うわけではないがやはり価格は気になる。動向と要因を丁寧に記述することができれば、消費者の理解を得ることができるのではないか。
- ・12 ページの食料安全保障の確立について、食料自給率や食料自給力という用語は、この問題に携わる人にとっては常識なのかもしれないが、指標の意味合いや算出方法などを繰り返し丁寧に説明していくべき。
- ・16 ページの食品ロスのデータについて、データや AI を活用した需給予測システムの構築推進は関心が高い分野。データや AI 等を活用し食品ロスを削減することができた具体的な事例を記載すれば、より多くの事業者に広く伝わるのではないか。
- ・21 ページの担い手の集積率について、目標と現状の乖離が大きいため、要因と対策について詳細に記載すべき。
- ・34 ページのジビエ利活用について、食品衛生上の適正な取扱いをして流通させなければ今後の利活用の拡大は見込めないと考える。適切な利活用が広がるような記載をお願いしたい。

(大津委員)

- ・白書については、見やすくなっている。
- ・冒頭に、日本全体で見たときの農業の位置付け、第一次産業の GDP などに関する記載があっても良いのではないか。
- ・トピックスは本文の前にあるものなのか。本文にたどり着く前に疲れてしまう。トピックスを白書全体に散りばめられないのか。
- ・農業は根幹となる大事な産業であり、4つの章にある食料自給率と食料自給力、食料の安定供給、農業の継続的な発展、農村の振興が大きな課題。それに加えて、東日本大震災などの災害という構造だが、全部横並びは羅列的に見える。
- ・グラフや図表が多く分かりやすいが、それで何が読み取れるのか評価が必要。数字をもって何が読み取れるのか、ニュース番組のコメンテーター的な説明があると良い。

(平野情報分析室長)

- ・中家委員から、ニッポンフードシフトの取組、花きや米、砂糖のコロナの影響について御指摘をいただいた。御意見を踏まえて本文での記載を検討していきたい。
- ・中家委員、柚木委員、二村委員から御指摘いただいた、農地、中小・家族経営の観点、経営収支や価格の点については、本文作成の際に検討させていただきたい。
- ・中家委員から御指摘のあった評価の点について、今年度の白書ではKPIを記載しており、当該年度の目標や、先の目標を記載することで現状の分析をできるようにしている。引き続き、そのような工夫をしていきたい。
- ・中家委員、堀切委員から御指摘のあった輸入の状況については、本文で記載できるよう検討していきたい。
- ・中家委員から御指摘のあった資材価格の動向について、本文で記載できるよう検討していきたい。
- ・柚木委員から御指摘のあった、再生可能エネルギーや営農型太陽光発電、盛土規制法案、流域治水関連法案のことについて、本文で記載できるよう検討していきたい。
- ・高槻委員から御指摘のあった、グローバルマーケットの開拓について技術の観点で記述をできるよう担当部局と相談したい。
- ・二村委員から、食料自給率や食料自給力の意味合いについて御指摘をいただいた。指標の意味合いを分かりやすく記載していきたい。また、食品ロスの事例については、担当局と相談して事例を入れられるか検討したい。農地、ジビエについても、御指摘を踏まえて本文に記載できるよう検討していきたい。
- ・大津委員から御指摘のあった、農業の一次産業全体での位置付けについて、どこに置くかは考えるが、御指摘を踏まえて検討していきたい。また、トピックスについては、昨年から冒頭に位置付けており、本文では1、2ページで紹介している。トピックス

は昨年からの取組であるため、引き続き冒頭にさせていただきたい。

(水野総括審議官)

- ・堀切委員から、食品産業として食品原材料の価格が非常に高騰しており大変な影響を受けているという問題意識が示されたが、昨年 12 月にガイドラインを作成して、この活用を促している。ガイドラインを多くの人に知ってもらい、活用してもらう必要がある。白書の紙面も使いながら、広く周知していきたい。政府全体としても、パートナーシップ対策を打ち出しており、独禁法、下請法の枠組みも活用しながら緊急調査を行い、問題ある行為については対応していく。堀切委員の御指摘のとおり、価格に転嫁することで消費者の負担を求め、それを消費者に理解してもらうことが極めて重要であるため、白書の紙面も使いながら理解を求めていきたい。
- ・二村委員から御指摘のあった食品ロスについて、AI データを用いた需給予測システムの優良事例については、勉強会などで企業の方々から実際の活用例と課題を聞いている。単に機械に頼るというだけではなく、どのような情報を入力し、どのように管理していくかが難しいという問題もあり、また大企業では需給予測の導入が進んでいるが、中小企業の利用が進んでいくかという課題がある。これらの課題に対応する施策を行っていく。優れた事例については、白書の中でしっかりと紹介していきたい。

(松尾経営局審議官)

- ・二村委員、高槻委員から、女性が能力を発揮できる環境整備について御意見をいただいた。地域を牽引する女性リーダーについては、地域の農業を担っていく認定農業者として女性が活躍できる場を作っていくこと、そして地域の農協、農業委員会や関係団体の中の女性役員の割合を増やすことをイメージしている。
- ・担い手の集積については、農地規模の拡大は進んできているが、農地が分散しているためこれ以上の集積が難しい状況も見られるため、今般法案を提出したところ、農地集約を促進し、規模の小さい農地は荒廃農地にさせないようにしていきたい。

(宮島委員)

- ・前回の委員会から、コロナウイルス等のことを記載いただき感謝。
- ・コロナウイルスへの関心は引き続き高いが、読者は今、食料安全保障の関心が一番高いのではないかと。毎年出す白書はそのタイミングのニュースや読者の関心に振り回されるものではないかもしれないが、読者にとってはウクライナ情勢を受けた食料の状況が気になっており、12、13 ページの様々なリスク要因が当てはまると考える。農水省として、読者が気になっていることを可能な範囲で書かないと、古いもの、資料集と

して思われてしまうおそれがある。

- ・ TPP のフォローアップを担当する中で農業のことを考える機会があった。当時は重要 5 品目の農業を守ろうという意識が強かったが、現在は輸出を増やして、ニーズに応じていくという前向きな方針に変わったのは良かったと思う。全ての農業者が輸出に取り組むわけではないが、輸出を意識してマーケットインの発想で取り組むことにより国内向けの品質等も向上し農業の意識の底上げにつながるのではないかと。輸出額 5 兆円は高い目標であり、簡単ではないと認識している。

(佐藤委員)

- ・ 昔の白書に比べると分かりやすくなった。
- ・ 大津委員の意見と同じであるが、第一次産業の位置付けを最初に記載すると、読者にも農業の置かれている立場が分かるのではないかと。
- ・ 主婦の目線では、食品の値上がりが気になる。農業資材の価格が高騰しており、例えば自社で使用する容器包装費について 4 月以降は最大 13% 高くなると言われている。
- ・ ウクライナ情勢の影響を強く感じており、今後の食品価格への影響も懸念している。このような状況の中、自社を守るためには自社製品の数%値上げも検討しなければと考えているが、値上げした時に顧客にどう理解されることが不安である。食品の価格の変動について詳しく記載することにより、消費者も理解していただければ良いと思う。
- ・ 女性の活躍に関しては、身体的な能力が男性よりも劣る女性の能力が発揮できることが重要であり、女性が活躍できる環境作りが重要。女性の能力の発揮という点では、農地の基盤整備が非常に重要な部分かと思う。法案も提出されたとのことで期待している。
- ・ 白書に関わるようになって、女性の農業者仲間と白書を読んで農業経営を考えようという話をしている。特集の「変化する我が国の農業構造」について、これから農業に携わる人が農業に魅力を感じるような記載になってほしいと思う。
- ・ 東日本大震災については毎年記載いただいて被災地としてはありがたいが、原発事故の区域に行くと野生のイノシシが群れをなして走っているという状況もあった。区域の街並みも整備されつつあるが、まだまだ戻る人が少ない。良くなった部分もあるが、まだここまでなのかと感じる場所もあり、そういったところも心に留めていただきたい。

(三輪委員)

- ・ 分かりやすい形でまとめていただいていると思う。
- ・ 本文で詳細に書いていくと思うが、トピックス 3 の農業 DX について、現在の記載内

容は DX ではなくデジタルライゼーションの範囲に留まり、効率化に矮小化している。DX とはデジタル化により社会がどのように変わるかということのため、その目的をしっかりとアピールし、農業者が自分事と思うように記述していただきたい。

- ・トピックスの新型コロナウイルスの影響と対応について、消費者や事業者の協力により効果が出たということを書いていただきたい。関係者の取組の効果が見えることが大事。
- ・食料安全保障のアドバイザリーボードの観点からは、ウクライナ情勢を踏まえた状況についてしっかり書いていただきたい。ウクライナ・ロシアは穀物の輸出国であり、市場の混乱等で影響が懸念される。昨年緊急事態食料安全保障指針を改正し、早期注意段階を発動しているので、事前にリスクに先回りをして備えているということをアピールしていただきたい。今後パニックになることを抑えることが大事だと考える。

(川上委員)

- ・生産者の一人として、12 ページの食料安全保障の観点では、去年から飼料価格が上がりに始めていて危機感を感じている。今年になり更に価格が上がっており、畜産農家では飼料が入ってこない状況が始まっている。日本で空いている農地を水張りで置いておくのではなく、自給飼料等の生産による有効な活用をお願いしたい。飼料自給率も下がり続けているが、グラフが下がり続けるのだけでは不安が残る。国民の不安に対応してやっていくという姿勢が感じられるようにすることが大事ではないか。
- ・20 ページの女性の活躍について意見があったが、女性リーダーの育成、働きやすい環境等に関し、それまでやってきた補助事業等の取組について QR コードを付け、参照できるようにしていただきたい。

(林委員)

- ・他の白書と比べても、非常に読みやすくなっている。前回の各委員のコメントも漏れなく入っているのではないかと。また、特集の「変化する我が国の農業構造」についてはどのような本文になるのか非常に期待している。
- ・全体として KPI を記載しているが、白書を今後の PDCA の材料とするためには関連する直近データ、例えば品目ごとの輸入依存状況や輸出状況や施策、予算、補助金等の関連資料の URL を記載し飛べるようすると、時間がある方はさらに理解が深まるのではないかと。
- ・14 ページのグローバルマーケットの戦略的な開拓について、キックマンのような優良事例をどのように横展開するかが重要。日本国内では高齢の方が、販売目的でない規模で農業をしている例も多いと思うが、海外に打って出るような、補助金に頼らな

い構造につなげないと、国際競争に勝っていけない。一方で、いきなり施策を変えるわけにもいかないため、まずは意欲ある農業者にどのようなサポートをしているかをしっかり記載いただきたい。

- ・農地基盤整備、農地集積と新規参入のマッチングや、需要予測や流通の非効率さをデータの活用やブロックチェーン技術で改善する試み等、政策課題同士の相関関係をマトリックスで示すとより分かりやすいのではないか。

(井上委員)

- ・非常に分かりやすい白書になっており、これからの農業経営のヒントになるのではないか。例えば、3000万円の経営体になるに当たり、白書を読み解くことは経営改善等について他の農業経営者と話をする際のタネとなる。
- ・トピックス間で相互に関係するところが分かるようにすると面白いのではないか。
- ・トピックス6の半農半Xについて、都市から農村へ何を求めて移住するのかが気になった。また、就農希望する者に対して地域側がどのような対応が必要なのかも気になった。バイトアプリ等の仕組みの紹介も良いが、受け手側の内面的な感情も表現できると良い。
- ・21ページのみどりの食料システム戦略に記載の資材の軽減について、リン酸アンモニウムのデータが記載されているが、例えば、ペレットの開発の事例においては、どのような代替策につながるのかを書けるとより分かりやすいと感じた。鶏糞や米ぬかからリン酸が抽出できるなどの表現ができると面白い。
- ・有機農業の取組は全耕地面積の0.5%で、2050年までに50倍の25%を目標としているが、有機農業に取り組む農業者としては、有機JASの面積と非有機JASの取扱いがどうなるかが有機農業に取り組む農業者の中で話題になっており、この点についての交通整理にも期待している。
- ・「農村に人が住み続けるための条件整備」について、住んでいる山梨県の北杜市では半農半Xや新規就農が多いが、地域コミュニティのワンストップ化が図られているところが少ない。地域運営組織の在り方が気になっており、観光や交通といった機能を包含した組織作りや、横断的に取り組むキーマンとなる方が活躍できることが重要である。地域と農村に来る人が相互に何を求めているかの診断チャートがあれば両者にとって良いと思った。

(山波委員)

- ・白書全体では非常に見やすくなっている。しかし、全体的に食料・農業・農村基本計画でどのように持っていきたいのかが、国民には分からない。

- ・ 5 ページの基幹的農業従事者は減少傾向とあるが、国としては減少と規模拡大をセットして見ているのかもしれないが、減少傾向では悪だけのイメージが残るので言葉の使い方をよく考えていただきたい。基幹的農業従事者数を 5 年スライドしてその増減を比較しているグラフは分かりやすい。
- ・ 9 ページの農業経営収支の部分は収支の中身も詳細に記載いただけるとありがたい。2020 年は農業粗収益が増加した一方、所得が減少しており、データなのでこういう書き方になるが、コストが掛かった理由も書いていただければ良い。
- ・ 一次産業を語る上で、農作業の安全対策について死亡者数が減少したが、依然他産業より高いという状況のデータがある。これを他産業並みにするのは子供たちが職業選択の際の重要なポイントのため、詳細な分析を行っていただき改善につなげていただきたい。

(浅井委員)

- ・ レポートとして白書の骨子案は良くまとめている。
- ・ 27 ページ、トピックスの農業 DX について、DX というからにはどうトランスフォーメーションしていくか、何がどう良くなるかを伝えていただきたい。若い人でデジタル化が進むという情報だけでは、農業 DX が伝わりにくいのではないか。
- ・ 過去の A 地点から B 地点のトレンドを紹介しているが、将来の C、D 地点にどうつながっていくことが重要である。良くないことなどの結果を共有するだけに終わってしまうおそれがある。白書でもどのようにシフトしていくか、その先を想像できるようなレポートになっていると良い。特集の変化の漢字の上にフリガナのシフトという表現は秀逸。
- ・ 骨子案のような内容だけを発信するレポートにしておくのがもったいない。レポートのなかに情報を深掘できるような QR コードを付けると良いのではないか。

(大津委員)

- ・ 女性農業者のデータでは、女性による情報発信や新商品開発等端的に成果の出ているデータを扱うのはどうか。女性の認定農業者、役員では数字は低い。女性が農業の何に参与していることを示すデータがあると良い。
- ・ 温暖化防止の観点では、営農型太陽光発電、小水力、バイオガス発電に取り組むことにより CO2 がどれだけ削減できたかを示せると、分かりやすいのではないか。

(平野情報分析室長)

- ・ 宮島委員、三輪委員から御指摘のあった食料安全保障への関心の高さ、ウクライナ情

勢の影響について本文の中で検討したい。

- ・佐藤委員からは生産資材や女性の活躍について御指摘いただいたので、担当局と記載について相談したい。
- ・三輪委員から農業 DX の目的も含めて紹介してはどうかとの御指摘があったが、本文の中で検討したい。
- ・川上委員からの飼料生産についての御指摘については、25 ページに飼料用米の話も記載しているが、こういった書き方があるか担当局と相談したい。
- ・林委員、浅井委員からいただいた URL や QR コードの活用に関しての御意見、林委員からいただいた関係する施策のマトリックスについての御意見については、白書は閣議決定するもののため、マトリックスの掲載は対応が難しいが、御指摘を踏まえて URL や QR コードを活用して白書全体で分かりやすさや利便性が高まるよう工夫したい。
- ・井上委員から、半農半 X、移住する側や受入側の気持ち、感情的な考えを記載していただきたいとの御意見をいただいたが、トピックス 6 か 3 章の本文で検討したい。
- ・山波委員から御指摘いただいた、減少するデータの記述ぶりや、経営収支、特にコスト変動の理由について本文の中で検討したい。
- ・浅井委員から、将来的な推測の記載について意見があったが、動向編のため基本は令和 3 年度に起きたことの紹介にせざるを得ない。データはできるだけ過去 10~15 年間のトレンドを見ているため、将来の予見、推察も可能になると考えている。読む方にとってそうした資料として参考になるのではないか。
- ・大津委員から御指摘いただいた女性関係のデータは探してみたい。

(平形農産局長)

- ・井上委員から資材価格の意見をいただいたが、肥料原料は海外からの輸入が主のため、国内資源で代替できるものがないかを見直していくような機会としたい。例えば、下水の汚泥等からリンがとれるため、そういったことも紹介したい。
- ・有機農業は現状 JAS 認証だけでなく、認証と同水準の取組を含めてもその程度の取組割合だが、国民にその現状を認識いただくことが大事。
- ・山波委員から他産業に比べて農作業事故の死亡率が高いとの指摘があったが、死亡事故は農業機械の事故が多く、また、シートベルトがされていないことが多いこともある。ちょうど今月は農作業事故削減月間であり、作業の点検の呼び掛けから始めており、白書も活用しながら周知を行いたい。

(渡邊輸出・国際局長)

- ・宮島委員、林委員から輸出の意見をいただいた。海外マーケットの拡大に向けて昨年

改訂した実行戦略を着実に実行し、マーケットインの発想で輸出に取り組む産地の育成や事業者支援などに、オールジャパンの体制で取り組んでいきたい。輸出事業者と伴走するGFPの取組も実施しており、輸出事業者等への情報提供や優良事例の横展開等の支援を行っている。また、3月上旬に品目団体の組織化等を盛り込んだ輸出促進法改正法案を国会に提出したところ。

(森畜産局長)

- ・川上委員の自給飼料の拡大について、畜産農家の飼料費の割合は肥育牛で3割、豚で6割と飼料高騰の影響を受けており、畜産経営において懸念となっている。輸入飼料の過度な依存を避けることが重要であり、飼料用トウモロコシ、飼料用米の生産、生産を支えるコントラクターの育成等に取り組んでおり、白書でしっかり記述したい。

(大橋企画部会長)

- ・特集について評価する声も多いが、どう評価すれば良いのか戸惑いの声もあった。食料安全保障への関心が高まる現状は農業政策への追い風となる可能性もあり、農業の基盤を立て直す良い機会である。過年度の動向を記載する白書ではあるが、事実の記載とともに、どういった思いで行政が取り組むのかを明示的に書けるかを御検討いただきたい。
- ・高槻委員からも指摘のあった農業DX、フードシフトの取組をスケールさせないと何をやっているか分からない。みどりの食料システム戦略では、電気を作るというよりもエネルギーをどう考えるかが重要。川上委員から右肩上がりでないと生産者は元気ならないという意見もあったが、燃料としての穀物という考え方も海外にある。右肩上がりを志向するに当たり、燃料を視野に入れることは大胆だが、これを議論することも良い機会ではないか。

以上